

# 日本語を教えたい人向けのガイドブック作成

## ーコースデザインに関するメモー

若井誠二（カーロリ大学）  
szeidzsi@gmail.com

### 【要約】

本論文では「コース・デザイン」をコース開始前までの手続きだけではなく、実践を通じたシラバスやカリキュラムの修正、最初に掲げた目標・達成期限・評価方法の見直しまでを含む一連の活動と捉えた。その上で、学校・機関ではなく個人で教えようとする際のコースデザインに必要な条件を「コースデザインの流れ」「到達目標と評価方法」「シラバスデザイン」「シラバスに対応した評価指標」「コースデザインから見る実線時の行動指標」という観点より説明した。

### 1. はじめに

ハンガリー、カーロリガーシュパール（以下、カーロリ）大学では、学科創立時（1995年）に中等教育機関の日本語教員を養成する教職課程（以下、日本語教職課程）を設置した。同課程で教員免許を取得した卒業生は、現在ハンガリーの日本語教育をリードする存在となっている。ボローニャプロセスが導入されると同時に日本語教職課程は廃止となってしまったが、その後も教職課程復活を目指し日本語教授法 I・II のコースを設置した。しかし 2020 年代に入り、カーロリとは別の大学で日本語教職課程がスタートし、カーロリ大学での教職課程の復活は難しくなった。一方で、ハンガリーにおける日本語学習の場は学校教育から語学学校やオンライン、あるいは家庭教師へと広がりを見せるようになってきている。これらの状況を踏まえ、カーロリ大学では現在、日本語教授法のコースが目指す教師像を個人で教える教師へと修正しカリキュラムを組んでいる。この修正に伴い、教職課程時代に作成し、その後マイナーチェンジを続けていたガイドブックを見直し修正することにし、2022 年 9 月に教員個人プロジェクトとして同修正活動をスタートさせた<sup>1</sup>。

本論では、ガイドブック修正中にコースデザインに関して得た知見について以下にまとめる。

### 2. コースデザインの流れ

コースデザインを構成する要素には大きく、ニーズ分析、レディネス分析、目標言語調査、シラバスデザイン、カリキュラムデザインがある（田中 1988）<sup>2</sup>。そして、「レディネス・ニーズ分析→目標言語調査→シラバスデザイン→カリキュラムデザイン」がコースデザインの流れとして提示されることが多い（例えば小林 2109）。しかし、ハンガリーの教職課程が目指す（第一、第二外国語として日本語を教える）学校教師や語学学校教師（以下、教員とする）の場合、この流れに従ってコースデザインの活動を行うことはほとんどない。

ニーズには、個人レベルだけではなく社会レベルのものもある（Kurtán 2001）。特に学校教育機関

や語学学校では、個人レベルのニーズより社会的レベルのニーズ（例えば CEFR や JLPT、あるいはハンガリーの場合は高校卒業試験に代表される語学試験に合格するために必要な言語能力、あるいはビジネスに必要な言語能力）が優先され、コース目標、学習内容、期間（授業回数）、授業時間、評価方法などが決定されていく。コースを担当する教員はあらかじめ決められたカリキュラムの枠内で、「授業目標→活動設計→授業実践→（授業や学習者の）評価」という実践活動を行う。そして、実践を通じて、学習者自律や異文化間コミュニケーション能力などの非言語能力や個人レベルのニーズ、あるいはレディネスに配慮しつつ、シラバスやカリキュラムの（微）修正を行っていく。このシラバスやカリキュラムの修正が教員にとってのコースデザインとなる。



図1. 教員によるコースデザイン

一方、個人で教える場合、最も重要となるのは学習者が到達目標、達成期限、評価方法を明確に理解し、それに納得することである。この条件がクリアされることで、学習者は（具体的な）学習成果を（自らも）知ることができるし、教師もコースの評価を行うことができる。したがって、まずは学習者が明確に理解し納得できる「到達目標、達成期限、評価方法」を設定するために、個人のレディネスやニーズの分析、目標言語調査が行われる。そしてこれらの手続きより定められた「到達目標、達成期限、評価方法」を元にシラバスやカリキュラムをデザインし実践を行う中で、シラバスやカリキュラムを修正（デザイン）し、「到達目標、達成期限、評価方法」の見直しも行っていくことがコース・デザインとなる。

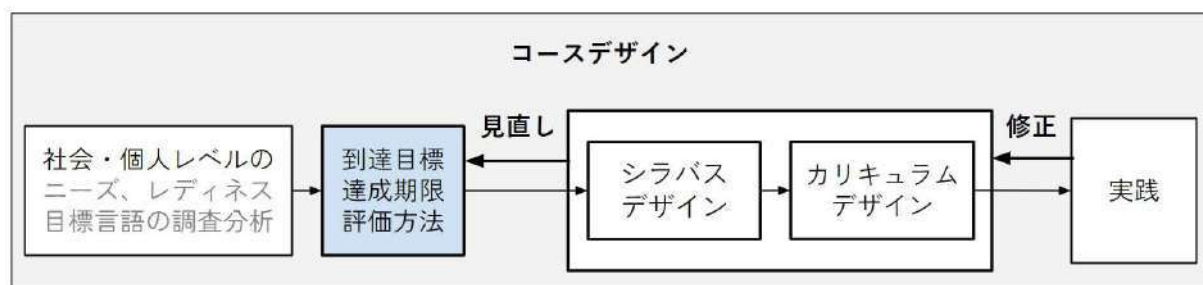


図2. 個人で教える教師のコースデザイン

## 2. 到達目標と評価方法

学習者は、自身が納得できる到達目標（コースの目標）が達成できれば、それがやりがいや自信につながり、周囲（例えば教師）からの評価も得られる。一方、自身が納得できない目標を教師に

提示されても「やらされているだけ」だと思ってしまう。また、学習者にとって到達目標が明確であれば、学習者は自身の学習がうまく進んでいるか、問題は何なのかをチェックしたり考えたりすることができる。しかし、到達目標が学習者にとって明確でない場合、授業における活動の意味がわからず、ただ教師の指示に従うだけになってしまう。

学習者が納得ができ、明確に理解できる目標を設定する方法の1つとしてビジネスの世界でよく使われるのが「SMART ゴール」である(熊平 2021)。SMART は“Specific” “Measurable” “Achievable” “Relevant” “Time-bound” の略になる。

表1. SMART ゴール (熊平 2021:211 参照)

Specific	客観的に誰が見てもわかるよう、具体的な目標にする。
Measurable	達成できたかどうかチェックできる(「成功、失敗」、あるいは5段階評価ができる)ような目標にする。
Achievable	達成可能でかつチャレンジのある目標にする。(簡単すぎない、難しすぎない目標にする)
Relevant	学習者のより大きな目標やニーズにつながる目標にする。
Time-bound	明確な期限が設定されている目標にする。

CEFR が推奨している行動中心アプローチでは、単に漢字・語彙・文法(文型)の量を増やすことではなく、言語を使って何ができるか(can-do)が重要視される。従って、到達目標を考える際は SMART ゴールを考慮した can-do (SMARTcan-do)の記述を行うことになる。例えば「毎日漢字を勉強する」という目標だけだと、毎日最低どのぐらい漢字を勉強すればいいかもわからず、どうやって漢字を勉強すればいいのかもわからない。また何のために漢字を勉強するかもはっきりしないし、いつまで毎日やればいいのかもわからない。これを「来年の夏に上級エーレッチャー<sup>3</sup>と JLPTN3 に合格したい」という学習者(以下、マリア)と相談しながら SMARTcan-do で表すと例えば以下ようになる。

表2. マリアの SMARTcan-do

「来年夏に上級エーレッチャーと JLPTN3 に合格するという目標に向けて(Relevant)、9月1日から10月31日までの2カ月で(Time-bound)『〇〇』(JLPTN3 問題集の名前)に出てくる漢字100個とその漢字の熟語を、意味を覚えて何も見ないで書ける Specific、Measurable、Achievable) ようになる。
---

表3. SMARTcan-do 例(学習者前は仮名)

学習者名	到達目標
ペーテル	〇〇というアニメを字幕なしで日本語で見たいようになるために、4月15日から4週間(8回×60分の授業)でアニメ第3話の内容を理解し、△△というキャラクターの台詞をアニメと同じスピードで感情をこめて、そして何も見ないで言えるようになる。
アンナ	日本語で自分自身や身の回りのことについて、簡単な会話やチャットができるようになるために、5月1日から5週間(10回×60分)で、Duolingo のユニット1のテーマ(カフェでの注文、自宅、日課、職業についての説明など)について最低5往復の会話・あるい

	はチャットができるようになる。
ガーボル	将来日本語通訳ガイドとして活躍できるよう、7月1日から8月31日までの2カ月で、ハンガリーの簡単な歴史と、ハンガリーのお札に乗っている人の説明を何も見ないでできるようになる。
ノーラ	来年の夏に日本でラーメンや定食を食べてみたい。それで、1月から4月までの3カ月で、日本の食文化について（ラーメン屋や食堂での会話、好きな食べ物についての会話、知らない食べ物について、料理の食べ方、日本の食習慣について）日本語で話ができるようになる。

もし、特定の教科書を学習する場合でも、「1課から5課までの漢字や語彙、文法を覚える」という目標を立てるのではなく、SMARTCan-do で到達目標を考えることが望ましい。

表4. 特定の教科書を使用する場合の SMARTcan-do 例

自分や身の回りに関する事柄についてコミュニケーションが取れるよう、9月1日から12月20日までの期間に、日本語を使って自己紹介や家族の紹介をしたり、1日の生活について説明したり、ショッピングでお店を探したり、お店で買い物ができるようになる。(あるいは、自己紹介、1日の生活、買い物の経験についてについて5分間スピーチをして、質問に答えられるようになる。)
---

目標と評価は表裏一体の関係にある。従って SmartCan-do で到達目標を考える際には、その評価の方法についても考える必要がある。例えば、アンナの到達目標の場合、漢字テストを実施して、その結果に合致目標に達したかどうか評価をするという形になるだろう。一方、ペーテルの場合だと、第3話に出てくる台詞の翻訳だったり、アフレコをして正確さやスピードを評価するということが考えられる。評価方法についても、学習者が理解し、納得するものを目指すことが重要となる<sup>4</sup>。

### 3. シラバスデザイン

教授法関係の資料にはシラバス・デザインの分類として「構造シラバス」「場面シラバス」「機能シラバス」「話題シラバス」「技能シラバス」「タスクシラバス」が挙げられることが多い。そしてコースデザインの際には、教科書分析を行いシラバスの組み合わせについて調べコース用のシラバス・デザインを抽出したり、各シラバス・デザインを組み合わせることが求められる。

シラバスを考えるということは、到達目標を達成するために必要な具体的な学習目標や、その学習目標を達成するために何を勉強すべきかを考えてリスト化していく作業とも言える。串田 (2012) は中上級の文法授業の構造シラバスを Can-do 形式による課題遂行型シラバスに書き換えた例、加藤 (2017) は、『みんなの日本語初級』を Can-do シラバス化した例を紹介している。しかし、管見の限り、教授法関係資料では、各シラバスをどのように組み合わせる Can-do シラバスをつくるべきなのかというガイドラインは示されていない。到達目標を Can-do で示す場合、シラバスも到達目標を達成するために必要な Can-do リストで構成されることが望ましい。行動中心アプローチでは、まず何をするか (どこで、誰に、どういう目的で、何ができるようになるのか) を考え、そしてそれを達成するためにどんなレベルのどんな技能が必要なのかを考えていく (奥村他 2016 : 38)。これに従うと、こ

の場合、シラバス作業の手順（の1つ）としては以下の方法が考えられる。

1. 到達目標のうち、「どこで、誰に」にあたる部分を記す。
2. 次に、到達目標を見直す。到達目標の中に達成しなければならない課題が複数あったら、それを「到達目標1」「到達目標2」のように分けて記す。
3. 「到達目標1」「到達目標2」を達成するために、具体的にどのような学習目標（ステップ）をクリアしてけばいいか考えていく。この目標も can-do の形で書いていく。
4. それぞれの学習目標を達成するために、具体的に何ができるようになればよいかを can-do で書いていく。

これを「構造シラバス」「場面シラバス」「機能シラバス」「話題シラバス」「技能シラバス」「タスクシラバス」の組み合わせで考えると

1. まず場面・トピックシラバス（どこで、誰に）の視点から到達目標を確認する。
2. 次に、タスクシラバス（どういう目的で）の視点から、到達目標を達成するために必要な学習目標を考えていく。
3. そして、技能、機能、構造シラバスの視点から、学習目標をクリアするための、もっと細かい目標を考えていく。

という手順となる。

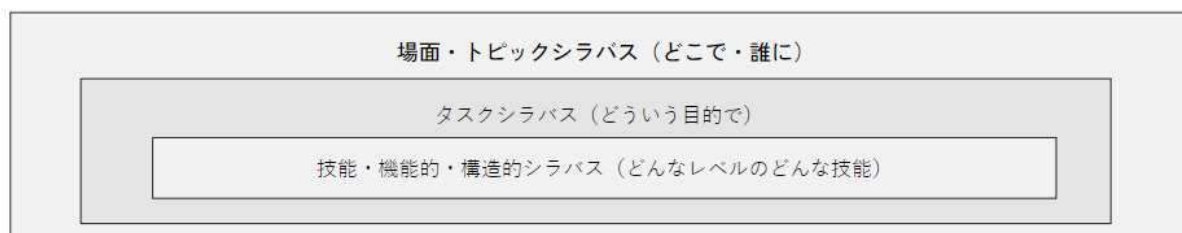


図3. SmartCan-do をシラバス化する際の各シラバスの階層化モデル

この手順に従いペーテルのシラバスをデザインすると表5のようになる。

表5. ペーテルのためのシラバス・デザイン

SMARTCan-do	○○というアニメを字幕なしで日本語で見て楽しめるようになるために、4月15日から4週間（8回×60分の授業）で、アニメ第3話の内容を理解し、△△というキャラクターの台詞をアニメと同じスピードで感情をこめて、そして何も見ないで言えるようになる。	
場面・トピックから見た到達目標	第3話の内容を理解する。(状況、内容、台詞についてハンガリー語でプレゼンできるようになる。) (到達目標1)	△△の台詞を暗記し演技できるようになる。(アニメと同じスピードで感情をこめて、そして何も見ないで言えるようになる。) (到達目標2)

タスクから見た学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3話で使用される語彙・表現・文法を聞いて、ハンガリー語に翻訳・説明できるようになる。</li> <li>・第3話に出てくる場所・状況・台詞についてハンガリー語で説明できるようになる。</li> <li>・第3話の内容・登場人物・ストーリーについてハンガリー語でプレゼンテーションができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・△△の台詞をアニメと同じスピードで言えるようになる。</li> <li>・△△の台詞を感情をこめて（強弱をつけて）言えるようになる △△の台詞を何も見ないで言えるようになる。</li> </ul>
機能・技能・構造からみた目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3話の音・映像で使用されている語彙・短文レベルの翻訳ができるようになる。（語彙・表現・文法理解）</li> <li>・第3話の各シーンについて説明できるようになる。（内容レベルでの要約）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・△△の台詞をハンガリー語から日本語に翻訳できるようになる。</li> <li>・アクセントや抑揚をつけて、△△の台詞が言えるようになる。</li> <li>・△△の台詞をシャドーイングできるようになる。</li> </ul>

#### 4. シラバスに対応した評価指標

到達目標と評価が表裏一体であると同じように、各レベルの目標にも評価、そして評価の指標が必要になる。ビジネスの世界では、プロジェクトを成功させるために、KPI (Key Performance Indicator)、KPI (Key Performance Indicator)、KDI (Key Do Indicator) という3つのレベルで数値化した指標を考えることが大切だと言われている（富田 2016）。KPI は最終的な目標が達成されているかの指標、KPI は最終的な目的にたどりつくために必要な中間目標が達成されているかの指標、KDI は中間目標を達成するための行動を計測可能な数値で定めた指標となる。

シラバス・デザインで明確となった各レベルの目標に対しても、この KGI、KPI、KDI の考えを用いて指標を考える。パフォーマンスがはっきりとした数値では表せない場合でも、学校の成績のように、何ができたら5、何ができたら4と評定基準を明かにしようとすることで、学習者にとっても、そして教師にとっても、より目標が明確になる。KDI については、数値で表せない場合には「やったか、やらなかったか」のチェックリストを作成するのもよい。指標が明確であれば評価も明確になるし、評価が明確であれば、学習者も教師も今、何をすればよいかを明確に意識することができる。

表5. ペーテルの到達目標1に関連する評価指標例

到達目標1	第3話の内容を理解する（状況、内容、台詞についてハンガリー語でプレゼンできるようになる）
KGI (テスト) 80%で合格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーリー全体について10分間のプレゼンテーションを行う。</li> <li>・毎週練習した内容のうち、無作為に選んだ1つについてハンガリー語で説明する。</li> </ul>
タスクから見た学習目標	・第3話で使用される語彙・表現・文法を聞いて、ハンガリー語に 翻訳・説明できるようになる。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3話に出てくる場所・状況・台詞についてハンガリー語で説明できるようになる。</li> </ul>
KPI (テスト) 80%で合格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先週翻訳した内容について語彙翻訳・短文翻訳のテストをする。</li> <li>・先週翻訳した内容についての音と絵の組み合わせテストをする。</li> <li>・先週翻訳した内容についてある場面の映像（会話文）を聞きハンガリー語で要約する。</li> </ul>
機能・技能・構造 からみた目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3話の音・映像で使用されている語彙・短文レベルの翻訳ができるようになる。（語彙・表現・文法理解）</li> <li>・第3話の各シーンについて説明できるようになる。（内容レベルでの要約）</li> </ul>
KDI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週5分程度の内容を翻訳する。（DeepL活用）</li> <li>・語彙集を作成し（ChatGPT利用）毎日1回は練習する。</li> <li>・翻訳部分について音を聞き、翌授業に説明できるようにしておく。</li> </ul>

## 5. コースデザインから見る実線時の行動指標

シラバスデザインで明らかになった目標達成までの期間を決めることがカリキュラム・デザインとなる。しかし、実践を行う中で、シラバスやカリキュラムを修正（デザイン）し、「到達目標、達成期限、評価方法」も見直していくことまでがコース・デザインと考えると、学習者の様子を観察し、柔軟な授業の組み立てをおこなうための行動指標が必要になる。この1つが、ビジネスの世界で活用されているD-OODAである（夕撃旅団 2018）。

表6. D-OODA のコンセプトと、(実践を通じての) コースデザインへの応用

コンセプト	コースデザインへの応用
Design ; あらかじめ決めたプラン・デザイン (共有されている基本共通概念)	学習者が明確に理解し納得した到達目標とそれを達成するためのコース
Observe : 現場の (リアルな) 情報の収集	学習者の様子の観察 (今日は、とっても疲れているみたい / 語彙を覚えるのが難しそうだ。)
Orient ; 状況の判断と方向付け	その場の判断 (今日はテストをしても駄目だろう / 新しい語彙の勉強方法を紹介した方がいいだろう)
Decide : 今、どうするか決定	今日はまずアニメの話をしてモチベーションアップにつとめよう。 / これまで使ってこなかった語彙マップを使って語彙の確認をしてみよう。
Act : 行動	アニメの話をする / 語彙マップを使う

実践を通じたコースデザインの修正は、実線時にD-OODAによる「情報収集→方向付け→行動」を繰り返しながら、カリキュラムの柔軟な調整を行い、場合によっては到達目標そのものを見直していくという作業になろう。

## 6. おわりに

本論文では、特に個人で教える場合のコース・デザインに関する教師の注意点について説明を行った。本論文では、コース・デザインをカリキュラム・デザインまでの段階ではなく、実践を通した、シラバスやカリキュラムの修正、到達目標、達成期限、評価方法の見直しまでも含む活動と捉えたが、コース・デザインを成功させるためには、アドバイザーとしての教師と学習者とのコミュニケーション（アドバイジング）が非常に重要となる（青木 2013、加藤 2022）。リフレクティブ・ダイアログなどのアドバイジングの方法についてどうガイドブックに取り組んでいくかについては、別の機会に報告したい。

## 参考文献

- Kurtán Zsuzsa 2001 *Idegen Nyelvi Tantervek, Nemzeti Tankönyvkiadó, Budapest, pp.46-47.*
- 青木直子 (2013) 『外国語学習アドバイジング プロのアドバイスであなただけの学習プランをデザインする』、Kindle 版.
- 奥村三菜子、櫻井直子、鈴木裕子 (2016) 『日本語教師のための CEFR』くろしお出版.
- 加藤聡子・マイナード, J. (2022) 『リフレクティブ・ダイアローグ-学習者オートノミーを育む言語学習アドバイジング』大阪大学出版会
- 加藤さやか (2017) 「CEFR/JF 日本語教育スタンダードに準拠した初級 (A1~A2) のコースデザイン紹介ー『みんなの日本語初級』を使ったスペイン・サラマンカ大学日西文化センターの実践例ー」『日本語教育通信 日本語教育レポート 第 35 回』国際交流基金  
(<https://www.jpfi.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/report/201711.html>)
- 串田紀代美 (2012) 「Can-do 形式によるタスク遂行型のシラバス構築の試みー中上級レベルの『文法復習』シラバスの見直しー」『日本研究センター教育研究年報』第 1 号、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター、pp. 39-65.
- 熊平美香 (2021) 『リフレクション(REFLECTION) 自分とチームの成長を加速させる内省の技術』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 小林ミナ (2019) 『日本語教育よくわかる教授法「コース・デザイン」から「外国語教授法の史的変遷」まで』アルク
- 田中望 (1988) 『日本語教育の方法ーコース・デザインの実際ー』大修館書店.
- 富田和成 (2016) 『鬼速 PDCA』クロスメディア・パブリッシング.
- ヒューマンアカデミー (2009) 『日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド』翔泳社.
- 夕撃旅団 (2018) 『ドイツ電撃戦に学ぶ OODA ループ「超」入門』Kindle 版、バンダ・パブリッシング

---

<sup>1</sup> 2004 年 8 月末までのプロジェクト

<sup>2</sup> ハンガリーで行われている大学入試を兼ねる高校卒業試験。試験には中級と上級がある。外国語の上級試験 (B2 レベル) で 60%の正答率を獲得すると、国家外国語試験中級合格扱いになる。

<sup>3</sup> ハンガリーで行われている大学入試を兼ねる高校卒業試験。試験には中級と上級がある。外国語の上級試験 (B2 レベル) で 60%の正答率を獲得すると、国家外国語試験中級合格扱いになる。



---

4 例えば「半年で5kgやせよう！」という目標を立てた人の評価方法としてコーチが「体重計に乗る」を提案したとき、ダイエットをする本人が「おなかの周りの長さをはかる」も評価方法に取り入れたいと申し出たら、コーチは（体重と胴囲の関係を調べた上で）それも評価方法に入れるかどうか検討する必要があるだろう。